

学生賞新設と第1回受賞者のお知らせ

2021年9月4日(土)、仙台市にある宮城大学太白キャンパスの大講義室にて第19回年會が開催されました。当初、前年度の年會が全国的なコロナウイルスの蔓延により中止せざるを得なかったことから、幹事会では原則対面での開催を念頭に置いて準備を進めてきました。しかし、開催予定日の一月前位から多くの地域で緊急事態宣言が発令されたため、年會では県を超えた移動を自粛するためにリモートを併用したハイブリット形式が採用されることとなりました。初めての試みで何が起きるのか予測できませんでしたが、参加者の皆さまはかなり慣れている様子で、大きなトラブルもなく、總會を含めて無事に終了することができました。一年以上の時間を費やして準備に携わった幹事の皆様、リモート開催をテクニカルな面でサポートしていただいた宮城大学・紺屋直樹講師と太白キャンパス事務局の皆様には心より感謝いたします。

今年会では、学生会員のモチベーション向上や研究推進の後押しなどを期待して学生優秀賞を新設しました。規約もまとめられ、口頭発表とポスター発表にそれぞれ7人以上の学生の発表がある場合に各発表形式に対して1名の受賞者の選考を行うことが決まっておりました。今回はリモート開催ということでポスター発表が中止となったこと、学生の口頭発表が11件あったことから、口頭発表部門のみの選出となりました。選考委員は幹事が務め、岡庶務幹事を委員長として発表者1名につき3~4人の幹事が評価を担当しました。その結果、第1回学生優秀賞には宮城大学食産業学群の4年生・佐藤夏海さんが選出されました。紅藻スサビノリの光色に依存する生理制御機構の分子生物学的研究に関する発表で、興味深い内容をしっかりと伝えるように発表できたことが評価されたということです。今後のご活躍を期待いたします。なお、他の学生の皆さんの発表も総じて立派なものであったことをお伝えいたします。今後、この学生賞の設置が学生会員および所属研究室の研究に活力を与え、日本応用藻類学会が活気溢れるものになると信じております。

次年度の年會もハイブリット形式での開催となる可能性は高いでしょう。今回無事に進行することができたので、ホスト側である宮城大学としてはリモート開催に対して良い感触を得ています。実は、次回年會は第20回の記念大会となります。願わくはより多くの会員の皆様に参加していただき、活気のある年會となることを期待しているところです。皆様には是非ご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

三上浩司

受賞者

佐藤夏海さんのコメント

宮城大学食産業学群食資源開発学類4年生の佐藤夏海と申します。この度は第19回日本応用藻類学会年会において学生優秀賞に選出いただき、大変光栄に思っております。また、今年会で新設された学生賞の最初の受賞者に選んでいただいたとのこと、大変名誉なことでも嬉しいです。初めての学会参加、そして対面とオンラインによるハイブリット形式での開催ということで、雰囲気はわからずとても緊張しましたが、練習の甲斐があり自分としては納得のいく発表が出来ました。これもご指導いただいている三上浩司先生や共同研究者の高橋潤先生のお陰と心より感謝申し上げます。また、日頃からお世話になっている三上研究室や近隣研究室の学生の皆様と食産業学群の多くの先生方にお礼申し上げます。本来であれば皆様に直接感謝の気持ちをお伝えし、意見交換などを行いたいのですが、このようなご時世のため対面での交流がなかなか出来ず残念に思っております。

本研究の結果は、原始紅藻スサビノリにおける補色順応が、すでに研究が進んでいるシアノバクテリアの場合とは異なり遺伝子の転写レベルでは制御されていないことを示しています。そのため解析データには大きな変化がなく一見ネガティブなものでしたので発表での伝え方には悩みましたが、このような賞を頂き実験を進めていく上で大きな自信となりました。研究を始めた当初は海藻の培養技術や実験方法の習得などとても苦労しましたが、最近少しずつ経験や知識が増えたことを感じながら実験を進めております。今後は皆様に更なるご指導いただきながら卒業するまで海藻生物学の研究を楽しく進めて参りたいと考えております。この度は本当に有難うございました。

賞状

学生優秀賞

宮城大学食産業学群食資源開発学類

佐藤 夏海 殿

発表題目

原始紅藻類スサビノリにおける補色順応は
転写レベルでは制御されていない

標記の発表は第19回日本応用藻類学会年会
において学生優秀賞に選出されました
よって一層の活躍を期待し賞状を贈呈し表彰
いたします

令和3年9月4日

日本応用藻類学会

会長 三上 浩司



